

注: 2006年10月から、青森市保健所が新しく移動しましたが、システムの都合上、2006年10月までの青森市分は東地方保健所管内分に含まれます。

第52週の発生動向(2006/12/25~2006/12/31)

1. 咽頭結膜熱については、八戸、むつ保健所管内において、第50週から**警報**が継続しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、むつ保健所管内において、第49週から**警報**が継続しています。
3. 感染性胃腸炎については、上十三、むつ保健所管内において、第50週から**警報**が継続しています。  
(注: 感染性胃腸炎の警報開始定点あたり報告数の基準値は20、解除基準値は12です。)
4. 水痘については、弘前保健所管内において、第49週から**注意報**が継続しています。
5. 流行性耳下腺炎については、東地方+青森市保健所管内において、第50週から**注意報**が継続しています。

第52週五類感染症定点把握

注: 五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数		東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数					
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	インフルエンザ	小児科	内科	眼科	基幹
(72) インフルエンザ	1	0.07										1	0.17	2	0.03	1				1	0.08					
(59) RSウイルス感染症			8	0.89			3	0.60	6	1.00	3	0.75	20	0.48	6											
(60) 咽頭結膜熱	1	0.11			34	3.78	1	0.20			7	1.75	43	1.02	8					1	0.13					
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	2.78	25	2.78	7	0.78			8	1.33	30	7.50	95	2.26	-10					25	3.13					
(62) 感染性胃腸炎	70	7.78	72	8.00	58	6.44	35	7.00	91	15.17	80	20.00	406	9.67	-155			9	9.00	61	7.63					
(63) 水痘	28	3.11	49	5.44	16	1.78	6	1.20	10	1.67	4	1.00	113	2.69	29					28	3.50					
(64) 手足口病	3	0.33							4	0.67	3	0.75	10	0.24	5					3	0.38					
(65) 伝染性紅斑	3	0.33							3	0.50	3	0.75	9	0.21	-2					3	0.38					
(66) 突発性発しん	4	0.44	3	0.33	4	0.44	1	0.20	2	0.33	6	1.50	20	0.48	5					4	0.50					
(67) 百日咳															0											
(68) 風しん															-2											
(69) ヘルパンギーナ			1	0.11											0			1	0.02	0						
(70) 麻しん(成人を除く)															0											
(71) 流行性耳下腺炎	32	3.56	9	1.00	25	2.78	6	1.20	8	1.33	6	1.50	86	2.05	-10		6	6.00	26	3.25						
(73) 急性出血性結膜炎															0											
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50			1	0.50	1	1.00							-12					1	0.50					
(82) マイコプラズマ肺炎					8	8.00					2	2.00	10	1.67	-6											
東地方																				2	1	1	0	0		
弘前																				15	9	6	3	1		
八戸																				14	9	5	2	1		
五所川原																				7	5	2	1	1		
上十三																				9	6	3	2	1		
むつ																				6	4	2	1	1		
青森市																				12	8	4	2	1		
合計																				65	42	23	11	6		

は警報      は注意報      「空欄」: 患者発生数0

感染症の感

全数把握対象疾患集計(2006年)

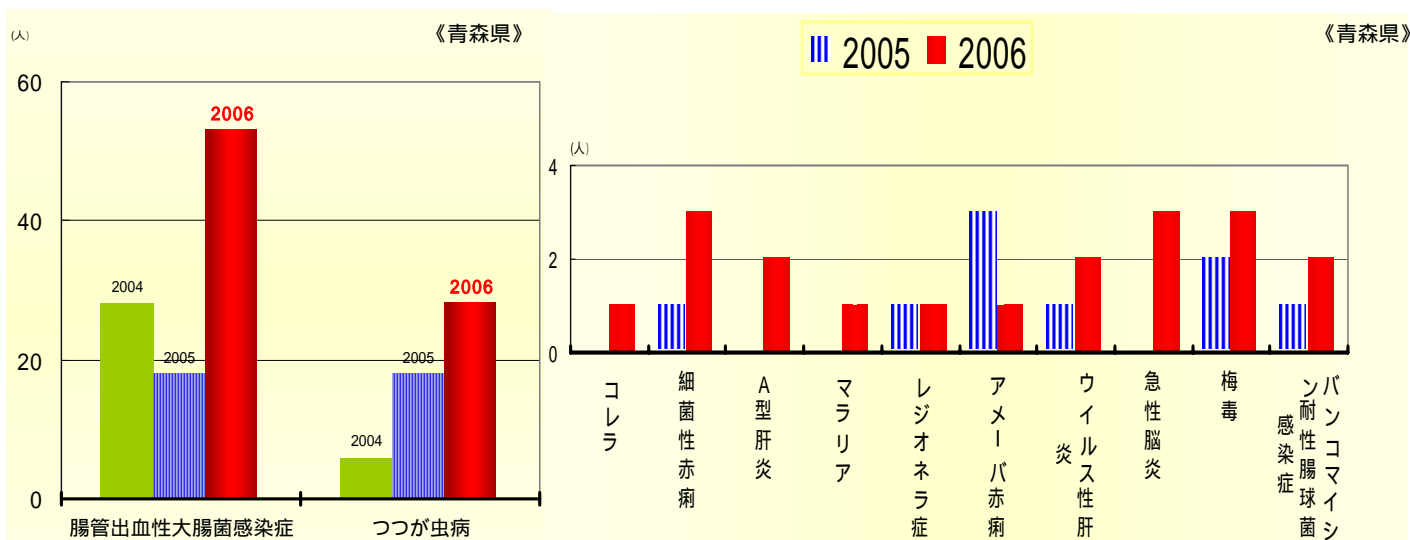


図1 届出数の多かった2疾患における過去3年間推移

図2 その他の全数把握疾患における2年間比較

2006年、青森県における全数把握対象疾患の報告数が最も多かった感染症は、腸管出血性大腸菌感染症(53人)、次いでつつが虫病(28人)でした。その他には、梅毒が3人、細菌性赤痢及び急性脳炎が各々3人、A型肝炎、ウイルス性肝炎が各々2人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症が2人、その他届出のあった疾患は各々1人でした(図2)。